

研修報告書 No.21

所 属： 三豊総合病院

研修先： 嶺北中央病院

地域医療研修として1月30日から2月26日の間、高知県本山町の町立国保嶺北中央病院で研修させていただきましたのでここに報告させていただきます。私は生まれも育ちも香川県であり、大学も香川大学でした。臨床研修は三豊総合病院でさせていただいていたため、高知県の地域医療に触れるのは今回の地域医療研修が初めての機会となりました。研修させていただいている三豊総合病院の患者の年齢層は香川県の県庁所在地である高松市の患者の年齢層よりは10歳ほど高いと聞いておりましたが、嶺北中央病院の患者の年齢層はさらに高く、90歳代後半の患者さんはあまり珍しくなく、100歳代山間部の地域での高齢化を実感しました。また、非常勤医師の数に比べ常勤の医師が少なく、都市部と地域での医師の偏在があることも感じました。嶺北中央病院からも大正診療所、沖の島診療所、汗見川診療所、大川村診療所などの診療所や、障害者支援施設、居宅介護支援施設などへの医師の派遣があり非常に幅広い範囲をカバーされているのだなと思いました。カバーしている地理的範囲は広いですが、そのおかげで嶺北中央病院よりもさらに山奥に住まれており嶺北中央病院までの通院が難しい患者さんにとっては大変重要な役割を果たしていると感じました。

嶺北中央病院での研修では、内科をはじめとする診療科の診察の見学、診療所や施設への派遣の同行、救急外来での対応、入院患者の担当をさせていただきました。三豊総合病院では救急外来で診察する機会は多くありましたが、一般外来をすることはあまり多くはありませんでした。嶺北中央病院では内科見学や診療所、施設で外来・患者の診察を多くさせていただきました。普段見学させていただいていた先生方はとてもスムーズに診察しているのを見ていたのでそういうものなのかと思っていましたが、自分がやってみるとなかなか要領を得ず、とても時間がかかって患者さんを待たせてしまうことになりました。3年目から担当する外来に向けての貴重な経験をすることが出来ました。この経験を活かして、今まで見学させていただいていた先生方くらいに上手な外来をしていけたらと思いました。救急外来では受診される患者さんの数はあまり多くはありませんでしたが、その分一緒に診察させていただいた上級医の症候に対するアプローチの仕方、考え方をじっくりと教えていただくことが出来ました。それにより、自分に何が出来ていなくて何が足りていないのかや、症候や疾患への理解が曖昧であるということに気づくことが出来ました。また、診療所では医療資源が限られているため、CTなどの画像検査をはじめとするいくつかの検査がその場で施行できない状態でありました。その際、上級医の先生から身体診察で所見をとることの重要性を教えていただき、改めてその重要性を実感することが出来ました。

研修内容に対する意見ですが、施設や診療所など、医師としては行ったことがないところに行くことが出来たり、一つの症例にしっかりと時間をかけて取り組めたりしてとても良かったと思います。嶺北中央病院の医師も他の職員の方々もとても親切にしてくださりありがとうございました。